

再出血認められないため ICU に帰室した。

【考察】出血点の確認はできなかったが、出血状態また抜歯部位を考慮すると、抜歯による骨骨折により翼突筋静脈叢が損傷し、出血の原因になったと推測された。抜歯による循環変動は抜歯開始1～3分時に最大となる事が多く、今回簡易な普通抜歯であったため循環変動が大きい時期での静脈叢の損傷が出血量の増大と止血困難を招いたと推測できる。また出血による心拍数増加に伴う心理的变化、出血が続くことによる不安、時間経過に伴う局所麻酔薬の効果減弱による痛みの発現が本症例において血圧上昇の一助となったと考えられる。麻薬性鎮痛薬であるフェンタニル、 $\alpha$ 2アドレナリン作動薬である塩酸デクスメトミジンは血圧、心拍数を低下させ、また塩酸デクスメトミジンは口腔粘膜血流量の減少が期待できるため、本症例においては有効であった。

【結語】止血困難な部位においては局所止血のみならず、循環管理も有用である。

## 16) 感染防止対策の取り組みと感染防止対策チーム(ICT)活動

○佐藤 穂子<sup>1</sup>, 板橋 仁<sup>1</sup>, 渡部 敏恵<sup>2</sup>, 東海林 徹<sup>2</sup>  
遠藤 初恵<sup>3</sup>, 柴田由美子<sup>2</sup>, 杉田 俊博<sup>3</sup>, 馬庭 暁人<sup>4</sup>  
西本 秀平<sup>5</sup>, 長谷川淳子<sup>2</sup>, 高橋 和裕<sup>6</sup>  
(奥羽大・歯科保存, 成長発育歯<sup>1</sup>, 附属病院<sup>2</sup>, 臨床研修<sup>3</sup>, 口腔外科<sup>4</sup>, 歯科補綴<sup>5</sup>, 放射線診断<sup>6</sup>)

【はじめに】奥羽大学歯学部附属病院ではこれまで医療安全の取り組みの一つとして院内感染予防に取り組んできた。平成24年度診療報酬改定に伴い、感染防止対策が医療安全から独立して評価されることになり、本学附属病院では院内感染予防対策委員会の管轄のもと感染防止対策室(Infection Control Team)を設置した。今回、ICTによる院内ラウンドの現状と感染防止への取り組みについて活動内容を報告する。

【ICT業務内容】院内感染サーベランス、医療廃棄物の適正管理指導、感染予防に関する職員教育、新たな治療法や医薬品・医療器具の導入に際し感染管理上の安全確認やその他感染対策に関する事項について職員への指導と教育などを行っている。

【ICTラウンドについて】毎週水曜日15:00から院内を4つのコースに分け、数名の委員がICTラウンドチェック表に基づきチェックを行う。チェック項目は見て確認する項目と現場の職員や実習生に聞き取りを行う項目がある。

【ラウンド時のチェック項目】①消毒薬の適正使用：手洗い用・一次消毒用・環境消毒用、②各部署の衛生管理、③洗面所・トイレ・汚物室処理室の衛生管理、④滅菌物品の衛生管理、⑤感染性廃棄物の適正処理、⑥医療行為の清潔性、⑦感染性患者および保菌者の適正管理、⑧血液・体液暴露事故の対応、血液・体液暴露事故発生時の届け出について、⑨院内感染防止マニュアルについて

### 【改善内容】

- ①消毒薬の開封日記載がないものがあり記載するよう指導。
- ②詰め替え補充式液体石鹸を撤去し液体石鹸・擦式消毒薬を設置。
- ③トイレに設置されていた検尿置き場を撤去するよう指導。
- ④各部署の清掃および整理整頓の励行を指導。
- ⑤医療廃棄ボックスを蓋付きに変更。
- ⑥ペーパータオルの設置場所を水跳ねしにくい位置に変更。

【まとめ】ICTラウンドを行うことにより院内各部署がより良い環境に整備されるようになった。また、さまざまな感染予防対策に関する啓蒙活動を行うことにより病院スタッフをはじめとする職員の感染予防に対する意識が高まった。今後も更なる感染防止に対する取り組みを行っていく予定である。